

市民協働事業 相互評価シート

1 市民協働事業の概要

事業名称	協働・共創スキルアップ講座事業	
事業の実施者	団体等	特定非営利活動法人市民セクターよこはま
	行政	横浜市市民局市民活動支援課／横浜市政策局共創推進課
事業の目的	協働（地域課題・社会課題に応じて多様な主体が良いところを持ち寄って共に取り組みを進める）及び共創（異なる主体がつながって新しい価値をつくり出していく）する上での人との関わり方、関係性の作り方、事業を形にするための提案スキルを学びます。	
事業の内容	<p>3回連続講座で実施しました。</p> <p>【第1回】 「協働・共創の意識づくり」「ボードゲームを通して、協働・共創を体験する」 ・講座（協働の意識づくり、共創・リビングラボの取組） ・7つの習慣ボードゲーム</p> <p>【第2回】 「横浜市の協働・共創の歴史を紐解く」「事例紹介」「アイディアプラン作成」 ・講座（コミュニティにおける歴史） ・事例紹介（株太陽住建、アオバ住宅社、NPO 法人のはらネットワーク） ・アイディアプランの作成（個人が持つテーマのアイディアプランを作成）</p> <p>【第3回】 「アイディア実現に向けてお披露目会」「グループワークと講評」 ・グループワーク（グループ内でアイディアプランの発表） ・グループ代表発表（グループの中から選ばれた1名が発表） ・アドバイザーによる講評</p>	
役割及び責任分担等	別紙	
実施期間	平成31年1月31日から平成31年3月31日まで	

記入日	令和元年6月21日
記入者	<ul style="list-style-type: none"> ・団体名等：特定非営利活動法人市民セクターよこはま ・記入責任者 氏名：吉原 明香 連絡先：045-223-2666
	<ul style="list-style-type: none"> ・団体名等：横浜市市民局市民活動支援課 ・記入責任者 氏名：松岡 文和 連絡先：045-227-7915

【別紙】

<役割分担>

事業項目	特定非営利活動法人 市民セクターよこはまの役割	市の役割 (市民活動支援課)	市の役割 (共創推進課)
講座の実施	企画・運営 申込受付 広報チラシの制作 会場確保 資料準備	企画・運営 会場確保 資料準備 受講者への連絡	企画・運営 資料準備
協働・共創に関する情報の収集・提供・発信	ネットワーク等を活用した事業周知 協働および共創に関する理解促進	事業周知 協働に関する理解促進	事業周知 共創に関する理解促進

1 事業実施プロセス相互チェックシート

このチェックシートは、事業実施に伴う、それぞれの段階で、必要なことができたかどうか、相互にチェックをおこなうシートです。相互の視点からチェックを行い、その後、「2 事業評価相互検証シート」で総合的な評価検証をおこないます。

◎相互チェックシートの評価基準

よくできた	まあまあできた	あまりできなかった	まったくできなかった
A	B	C	D

① 事業計画段階

		セクター	総合	行政
1	自分たちが達成すべき大きな目的やミッションについてよく話し合うことができましたか。	A	A	A
2	お互いの立場や組織の違いを話し合っよく理解することができましたか。	A	B	B
3	ニーズを把握して共有するとともに、この事業の目標と実施方法を話し合っ決めてことができましたか。	B	B	B
4	実現のためにそれぞれが何をできるかを考え、話し合っ役割分担を決めることができましたか。	B	B	B
5	会計のルール等、お互いの組織内部の取り決めについて、説明し合っよく理解することができましたか。	A	B	B
6	事業を始めることや計画中であることを、ホームページや会報等を使って市民に発信することができましたか。	A	A	A

② 事業実施段階

		セクター	総合	行政
1	率直な意見交換のもとに、お互い対等な立場で事業をすすめることができましたか。	A	A	A
2	お互いの強みや得意分野を、どう生かし合えるかを考え、提案しながら取り組むことができましたか。	A	B	B
3	相手に任せっきりせず、お互いが役割を自覚して積極的に取り組むことができましたか。	A	A	A
4	事業の進捗に応じて、目標、ニーズ、対象、実施方法などをふりかえり、修正しながら取り組むことができましたか。	A	B	B
5	必要に応じ、関連する他の部署や団体などを巻き込みながら事業をすすめることができましたか。	A	A	A
6	事業終了後の見通しについて、話しながら取り組むことができましたか。	B	B	B
7	事業の進捗状況を、ホームページや会報等を使って市民に発信することができましたか。	B	B	B

③ ふりかえり段階

		セクター	総合	行政
1	協働することで、単独でおこなうのに比べてどのような効果が得られたか、話し合っ共有できたか。	A	A	A
2	受益者が満足を得られたかどうかについて、話し合っ確認することができたか。	A	A	A
3	これまでを振り返って、お互いの考えに相違点がなかったかについて話し合い、確認する事ができたか。	A	A	A
4	期待された事業成果を得られることができたか。	A	A	A

3 事業評価相互検証シート

事業実施プロセス相互チェックシートでおこなった結果をもとに、相互で本検証シートを作成します。

事業の計画づくり

(協働して事業計画をつくるにあたり、お互いに共有できたことや認識に違いがあったこと、今後、改善が必要と思われることはどのようなものですか。)

【共有できたことや認識に違いがあったこと】

<共有できたこと>

事業の目的や目的に沿ったプログラムの内容、講師の選択、日程、時間など、十分に時間をとりながら話し合っ共有することができた。

より理解を深めるためのプログラムを計画することで、参加者がアイディアプラン作成に取り掛かりやすいように工夫し実行することができた。また、参加者同士の意見交換などを行う交流の機会を設けることで、顔の見える関係を築くことができた。

<認識に違いがあったこと>

特になし。

【今後改善が必要と思われること】

3回の講座では、協働や共創についての学びを深めることが難しいと感じた。今後は講座回数を増やすなど検討し、より一層の学びとお互いの関係性の積み上げにつなげていきたい。

事業実施

(協働して事業を実施した結果、お互いに共有できたことや認識に違いがあったこと、今後、改善が必要と思われることはどのようなものですか。)

【共有できたことや認識に違いがあったこと】

<共有できたこと>

参加者が共感できるような講師を選択し、実際の活動に活かせるようなプログラムを組むなど、三者で共有・実施することができた。

講座前にタイムスケジュールや役割分担の確認のための詳細な打ち合わせを行い、全体的な流れの共通認識、役割認識ができており、そのため当日も状況に合わせて柔軟に対応することができた。

実施回の振り返りや次回以降のプログラムについて適宜意見交換し、方向性やプログラムの詳細について共有することができた。

参加者への事前の説明を十分に行ったことにより、より実践的なアイディアプランを企画していただくことができた。

事業実施後に懇親会を開催し、受講生一人ひとりから本音の経験談や今後について共有することができ、参加者同士の親睦を深めることができた。

<認識に違いがあったこと>

資料作成や準備物品などの詳細な部分については、現状では役割分担ができているものの、担当者の変更も考えて、文書等でのやり取りが必要と思われる。

【今後改善が必要と思われること】

事業を運営する上で、詳細な部分についてもお互いに情報共有ができるように、綿密な連絡体制を構築すること、そして次回開催時のためにも記録として残すことが必要である。

講座終了後、受講生の活動（地域活動等）についての追跡調査と、活動のフォローアップ、支援体制について検討する必要がある。

事業の成果

（協働して事業を実施した結果、当初期待された事業効果がどのような成果となりましたか。）

・市民セクターよこはま、市民局市民活動支援課、政策局共創推進課が協働することで、お互いの持つノウハウや経験・知恵を、十分に講座で生かすことができた。7つの習慣ボードゲームの実施やアイデアプランの作成、協働・共創に携わっている団体や企業の事例発表など、毎回様々な企画を取り入れたことで、参加者の満足度も高く、また、参加者同士の顔の見える関係が深まったことで、新たなネットワークが形成され、地域課題の解決につながっていくことが期待される。

・市民セクターよこはまは、プログラム全体の進行や、ワークショップ実施、資料作成、会場手配等の講座運営、調整等に通じており、効率的な運営が実施できたとともに、蓄積された情報やこれまでの活動経験から検討した企画を効果的に実現することができた。

自由記入欄

前回のプログラムで実施した個別面談や、提案書も本番ベースで記入するなど、緊張感を保てる工夫が必要である。また、講座を受講した方々が、その提案を実現につなげていくための仕組みの検討も必要だと考える。